

大阪大学と一般財団法人未来医療推進機構の挑戦 — 中之島クロスから世界へ —



夢はバラ色

奥山俊郎*

The Challenge of Osaka University and the Organization for Future Medicine innovation
—From Nakanoshima Cross to the World—

Key Words : Nakanoshima Cross, Future Medicine, First-in-human, Ecosystem

はじめに

21世紀の医療は、超高齢社会の進展、生活習慣病の増加、新興感染症の脅威、医療資源の国際的偏在など、従来の医療体制では解決困難な課題に直面しています。こうしたなかで「未来医療」という革新的な概念が誕生しました。これは、まだ存在しない医療技術や治療法を創出し、実際に社会実装して患者の命を救う挑戦を意味します。その先駆けとなる拠点が大阪市北区中之島に設立された「中之島クロス (Nakanoshima Cross)」であり、未来医療推進機構がその運営を担っています。

本稿では、未来医療推進機構の理念と活動、さらには2025年8月に締結された大阪大学との包括連携協定の意義を踏まえ、本拠点が果たす役割と将来展望について述べます。

第1章 中之島クロスの歩みと大阪大学との連携

中之島クロスは、2019年に設立された未来医療推進機構が2024年に開設した国際的医療イノベーション拠点です。設立わずか1年足らずで多数の企業や研究機関を集約し、研究開発から社会実装までをワンストップで支援する体制を確立しました。

この急速な発展の背景には「シーズの社会実装の壁」を乗り越える仕組みの構築があります。大学の基礎研究成果を臨床応用、製品化までつなぐ過程では、法規制対応や治験、資金調達、製造基盤の確保など多岐にわたる課題があります。中之島クロスは



これらを包括的に支援し、産学医連携のハブとして機能しています。

さらに、2025年8月28日に大阪大学(総長 熊ノ郷淳)と未来医療推進機構(理事長 澤芳樹)は、「未来医療」の推進を目的とした包括連携協定を締結。これにより、両者の強みを結集し、研究開発・社会実装、人材育成、スタートアップ支援、異分野融合研究や国際連携など多面的な協力関係が生まれました。

大阪大学は、幕末の蘭学者・緒方洪庵による「適塾」に端を発し、西洋医学の普及と種痘、新たな治療の社会実装を追求してきました。この実学精神が令和の時代に中之島クロスで甦り、未来医療の実現へと結実しつつあります。

澤理事長は「阪大をはじめとする大学の優れた研究成果が社会実装されるよう、産学医の垣根を越えた共創を加速させたい」と述べ、熊ノ郷総長も「学生がスタートアップの現場を実体験できる場として期待している」と語りました。



* Toshiro OKUYAMA

1971年9月生まれ
関西大学 社会学部 (1995年)
現在、一般財団法人未来医療推進機構(サ
ラヤ株式会社) 副理事長兼事務局長
TEL : 06-6690-8973
E-mail: toshiro.okuyama@miraikiko.jp

第2章 未来医療の実践

ーファーストインヒューマンから社会実装へ

未来医療とは、現存する先端医療の枠を超え、社会にまだ存在しない医療を形にすることです。澤理事長自身も、心不全治療用再生医療製品「ハートシート」の世界初の実用化を実現した経験から、未来医療の真価は「ファーストインヒューマン」、すなわち患者への投与で証明されると確信しています。

このプロセスは研究開発だけで完結せず、多様な難題を包括的に解決する体制が不可欠です。そこで中之島クロスは、治験や規制対応、資金調達、製造拠点の整備（特に再生医療のためのCDMO＝医薬品受託製造機関の設置）を一体的に支援しています。

加えて、単なる技術開発の物理的場としてだけでなく、企業研究者、大学関係者、医療従事者が交流する「Qrossover Lounge 夢」の共創空間を設け、異分野の知見と人材が活発に融合し次なる革新が生まれる場としています。

澤理事長は、「世界で最初に人に投与し、国際的な標準に押し上げる拠点を目指す」と高い志を掲げ、中之島クロスを単なる地域拠点ではなく、世界をリードする未来医療のハブに位置づけています。

第3章 人材育成とエコシステム構築

ースタートアップを支える土壌

未来医療の社会実装には、技術とともに優れた人材の育成が不可欠です。中之島クロスは、研究者・企業に加え、学生・若手研究者・市民も巻き込んだ人材育成の拠点です。

米国のように大学発スタートアップの文化が根づく国と比較して、日本では挑戦環境が十分ではありません。未来医療推進機構は、起業家精神を涵養する教育、国際展開を伴走支援するインキュベーション、そして大企業・スタートアップ間のオープンイノベーションという三つの機能からなるエコシステムを構築しています。

「Qrossover Lounge 夢」は、堅苦しい会議場ではなく日常的な交流の場として機能し、雑談や偶発的な出会いから新アイデアや連携が生まれる仕組みです。

大阪大学との包括協定により学生がスタートアップや臨床現場に参加する機会が拡充され、実践的な人材育成が促進されています。熊ノ郷総長の「学生



が現場を実体験できる場」という言葉が示すように、教育と事業化・臨床が一体となった取り組みは革新的です。

さらに、中之島クロスは小中高生向けの参加型プログラムで、未来医療の社会的意義と科学的基盤の裾野拡大に寄与しています。科学技術の社会理解と受容を促進するこの活動は、将来的な医療政策や科学文化の発展に資する重要な基盤となります。

産業面では、大企業の資金力・製造力とスタートアップの革新性が融合し、新規治療法や再生医療開発の加速に貢献。行政との対話も推進し法整備も視野に入れることで、制度面での環境整備にも取り組んでいます。

澤理事長が示す「助かる命を一人でも多く救う社会」の実現には、失敗を恐れず挑戦を受容する文化の醸成が必要です。中之島クロスは、人材と知識、産業と社会全体を有機的につなぐ「人材のつぼ」として機能し、次世代のリーダーたちを輩出しています。

第4章 大阪・関西から世界へ

ー万博レガシーを活かしたグローバル展開

2025年大阪・関西万博は、未来医療推進機構にとって大きな飛躍の契機となりました。世界の注目が関西に集まるなか、中之島クロスは未来医療の国際拠点としての存在感を示し、多様な人材と知の交流が促進されました。

大阪・関西には大阪大学、京都大学、神戸大学、関西8医科大学など世界的な大学研究機関や製薬企業、医療機器メーカーが数多く集積。中之島クロスはこの地域資源をつなぐ「触媒」として機能し、世界に向けた医療イノベーションの発信基地となって

います。

未来医療推進機構が追求するのは、先端技術の単なる実用化にとどまらず、社会実装までを統合的に推進するエコシステムの構築です。研究成果から製造、治験・規制対応、そして国際展開に至る全過程をワンストップで支援し、これが日本の競争力を世界水準へ引き上げる「エンジン」となります。

また、万博の成果を次世代人材育成に活かす取り組みも進んでいます。未来医療の現場で経験を積んだ学生や若手研究者がイノベーションの推進者へと成長し、地域と世界の架け橋となることが期待されています。

世界の再生医療やゲノム医療分野での国際競争は日増しに激化しています。日本が世界の先頭に立ち続けるためには、中之島クロスが持つ強みを最大限に活用し、研究から産業化、国際標準への早期移行を図ることが必須です。

澤理事長は「助かる命を一人でも多く救う社会」の実現は国際的視野と地域密着の両輪がもたらすと強調。万博というレガシーを生かし、日本発の未来医療を世界のあたりまえとする挑戦は、大阪・関西から始まり、世界に広がる道を歩み始めています。

おわりに

未来医療推進機構と大阪大学の連携は、単なる研

究成果の積み重ねにとどまらず、社会全体を巻き込む新たな医療革新の潮流を生み出しています。未来医療とは「まだ存在しない医療を創り出す」実践的営みであり、臨床適用＝ファーストインヒューマンでその価値が立証されます。産学医の壁を越え、挑戦と共創の場が中之島クロスに形成されることで、多くの壁が取り払われています。

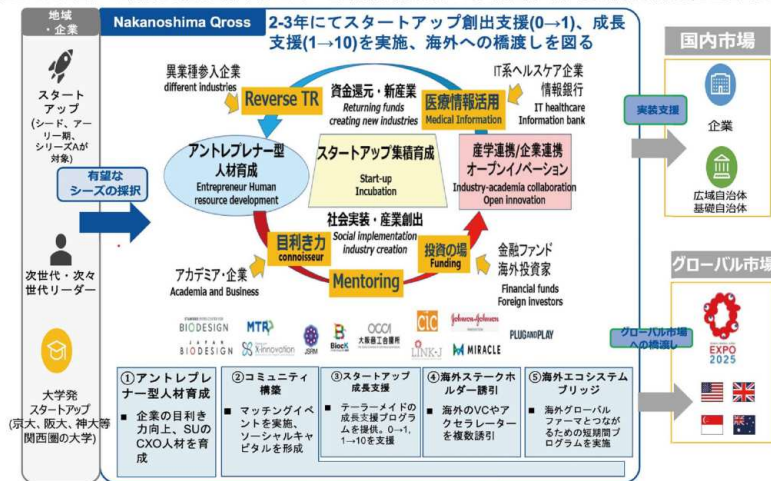
人材育成はこの取り組みの根幹です。若者が未来医療の現場で挑戦し、科学と社会が相互理解を深めることで、日本社会全体の医療リテラシーを向上させています。科学技術と産業、社会が有機的に結びついたエコシステムは未来医療を持続的に発展させる基盤として機能しています。

大阪・関西という地域は、「実学の阪大」が培ってきた社会実装の伝統、多数のライフサイエンス集積、万博によって築かれた国際ネットワークを背景に、未来医療ライフサイエンス都市を目指す最適地です。そのレガシーを糧に世界に向けた医療イノベーションの発信を続けていきます。

未来医療の道りは容易ではありませんが、挑戦の積み重ねが新たな可能性を拓き、一人でも多くの命を救うことで未来社会の希望となるでしょう。中之島クロスから始まった挑戦は、大阪、日本、そして世界へと広がり、やがて国際標準となる日が訪れることを心から期待しています。

未来医療を生むエコシステム (スタートアップエコシステム)

ライフサイエンス・ヘルスケアスタートアップ企業への教育・伴走支援、国内市場におけるサービス実装、グローバル市場への橋渡しを通じ海外市場へのサービス展開支援を行うことで新産業の創出と活性化を支えるエコシステムを確立



© Organization of Future Medicine.